

地域密着型サービス評価の自己評価グループホーム 銘仙の家

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・グループホーム銘仙の家として、独自の理念を作成し意識してサービスにあたっている。又、フロア内にも掲示し、スタッフ・利用者・家族が理念を共有できるようにしている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・開設後、理念については、職員会議・カンファレンス・研修会等で周知意識づけを行っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・地域社会に出る機会を作り、そこで利用者に関していく中で、理念の啓発に努めている。</p> <p>・グループホーム運営推進会議資料に必ず理念を添付し常時説明。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・外出時、散歩時は、地域の方々に積極的にあいさつと言葉掛けを行っている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・近所の方が書道教室を開いてくれ教えに来てくれる。</p> <p>・利用者の希望に応じて、地域事業のミニデイへの参加を企画している。</p> <p>・地域の祭りへの参加、作品展への出品をみんなで考えていきたい。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・本年に予定している家族会・納涼祭への招待を予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・法人内の人事考課制度を活用し、グループホームとしての部門目標、職員個人の目標を作成している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議において、利用者・家族の意見・要望を聞いたり、利用者の日常の生活をホーム新聞で伝えている。	○	・外部評価の結果の公表を行っていききたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・介護報酬改定に伴ない不明な点、日頃不安に思っている点等、相談にのっていただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・施設内で研修会を実施している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設内研修会で高齢者虐待・身体拘束について周知している。新聞・テレビニュース等で報じられる事案についても活用している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約をする前に必ず本人・家族に見学をしていただき、生活の様子、雰囲気、実際のサービスを確認していただいている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・日常生活の中で利用者の言行動から気持ちや考えを理解するように努め、そのことを職員間で周知し援助の一助としている。</p> <p>・不満、苦情については、報告書をあげ、職員間の検討材料として、その結果を援助に活かしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・介護計画書の見直し時に、家族カンファレンスを開き、生活の経過を報告している。</p> <p>・事故・苦情発生時、体調変化時等は、速やかに家族連絡を入れている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・玄関に、ご意見箱を設置。又、出入口に、苦情・相談担当者の職員写真を掲示。又、面会時に、日頃の様子をお伝えすることを心掛けている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・個人面談を、定期的実施。</p> <p>・毎月1回グループホーム職員会議を開き、職員からの意見・要望・不安等を聞き反映している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・利用者からの要望が多いイベント、行事、催し物の時は、通常より職員の配置を手厚くしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・なじみの関係づくりを尊重するため基本的には固定化できている。まだ、退職者はいないので、そのような場合は、頃合いを見て説明していきます。新入職員の時も同様。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・施設内研修会、外部研修にも積極的に参加できている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同法人の他グループホームの管理者、職員と密に相談できるよう配慮している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・日頃からコミュニケーションを重視している。 ・年2回健康診断を実施し、職員の健康管理に配慮している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・各職員の勤務実績、勤務状況を良く見ていて、適切な助言をしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談時から情報収集を厚くし(生活歴・趣味・性格・既往歴等)、利用者本人の意向に添えるよう入居前カンファレンスを開き、情報を共有している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談時から情報収集を厚くし(生活歴・趣味・性格・既往歴等)、利用者本人の意向に添えるよう入居前カンファレンスを開き、情報を共有している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人・家族のことを第一に考え、必要な・希望するサービスが利用できるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人や家族に見学していただいたり、相談時色々な話しをすることで信頼関係を築いていく。また、入居当日にも、本人・家族とお話しをして、それを受け、当日にカンファレンスを開き職員は情報の共有に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者の生活歴・経験値を尊重して、人生の先輩として、職員が学ぶ・教わる側になっている。家事の知識・やり方、園芸・菜園等あらゆる場面で利用者から知識を学んでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・身体・精神両面の変化時は、どんなに些細なことでも、必ず家族連絡を行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族カンファレンス、面会時、電話連絡時は、日常の様子報告、相談、連絡を行い、意向に添えるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・生活の中で、本人が話される昔の事から現在に至る事を、利用者をもっと良く知るために大切にしてコミュニケーションを取っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・共同作業(洗濯、食事の用意・片付け等)の場を作り、生活の楽しみが持てるようにしている。 ・利用者各々の性格も考慮して、役割や係を分担している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・ご健在であるとの近況報告はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の希望、要望を定期的に聞く機会を設けている。 ・年1回アンケートの実施。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族、親類からも情報を収集している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・本人の日々の言行動から、身体・精神両面の変化に気付くようにしている。 ・本人の行いたいこと、できることを見つけるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人・家族の希望を取り入れている。 ・本人の生活歴や望む生活を汲み作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・日々の生活の中で、身体や精神の変化が生じた時は、随時職員間でカンファレンスを行い、併せて本人・家族の気持ちを大切に介護計画書を見直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・利用者各々の身体・精神の変化は経過記録、情報ノート、連絡ノートに記載し、情報を共有している。 ・食事、排泄、入浴、健康チェック等も経過記録に記入している。 ・アセスメントシートの活用で、利用者の新たな一面が気付けるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・建物内に機械浴槽の設置もありますので、身体状況の悪化があった場合でも、利用者負担の掛からない入浴が可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・消防署の指導・協力のもと避難訓練を実施して、防災教育を受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・本人・家族の希望があれば、他サービス事業者のケアマネジャーと話し合っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・今の所このケースに対面したことはありません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医による定期的な往診あり。 ・24時間連絡可能な体制になっている。 ・協力医療機関との連携もあり。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・日頃から利用者に対応する時は、接遇に気をつけて対応することを心掛けている。 ・施設内研修で接遇・個人情報保護について行い職員の意識向上を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・生活においては、職員が勝手に事を決めて行動を促すのではなく、コミュニケーション・意思の尊重を大切にして支援している。(声掛けは必ず行い、本人が意思、希望を表現できるように接している。)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員の都合で急がすことなく利用者各自のペースに合わせて支援している。 ・利用者本人の気持ちを大切にして支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・毎日の洋服の選別は自己にてしていただき、できない時は確認を取りながら行っている。 ・理美容は、希望で家族と通ったり、訪問理美容で来てもらっています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事は、施設内の栄養課から配食していますが、みそ汁をよそったり、お茶を入れたり、みんなで交代で行っている。 ・漬物をつけたり、ちょっとした軽食はみんなで作り楽しみとしている。 ・地域へ外食に行くこともあり。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・毎週1回は近所に買い物に行きます。その時に嗜好品を購入し、居室・冷蔵庫で管理される方もいます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄援助が必要な方においては、排泄パターンの把握に努め、声掛けをトイレ誘導・トイレ介助を行っている。又、トイレ時不自由がある際は、遠慮なく声をかけていただけるよう配慮している。特に、尿・便意があいまいで訴えが難しい方には、さりげなく誘導している。気持ちよくしようしてもらうために毎日清掃・整備を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は週3回入浴していただいている。 ・入浴時間・希望等は、本人のペースを大切にしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・昼寝等休息は、本人の希望にまかせている。ただ、体調不良時は、職員の方で気遣い促している。 ・入眠・起床時間、室温調整、夜間排泄時間等は、一人ひとり把握し巡視時にその都度確認している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者を一方的に援助するのではなく、利用者のできる能力を探し把握するようにしている。そして、その能力を認め日々の生活に活かしている。(洗濯干し、洗濯たたみ、掃除、食卓の準備、盛り付け、食器洗い等)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物のため外出する時は、本人の買いたいものを買ってもらい、支払いも自分でしてもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・近隣への散歩は、天気さえ良ければ、ほぼ毎日行っている。テラスでの植物、野菜の世話・手入れが気分転換になっている。 ・車による外出(公園での散歩、ピクニック、買い物、外食等)も利用者の希望で行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・普段は行けない所への支援実績はないが、例えば親族の法事や祝い事等への参加の要望等があれば家族と協力して考えていきたい。通院のお手伝いはしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話を掛けたい時は、通話の支援を行っている。手紙類を出したい時は、職員と一緒に近隣の郵便ポストに出しにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時は笑顔で対応し、本人と面会者がゆっくりとくつろげるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止についてのマニュアルの周知。 ・言葉による身体拘束もあることを周知。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・出入口は、キー管理している。 ・利用者が外に行きたい時は、職員付き添いのもと外出している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・昼夜ともに居室への訪室は定期的に行い、安心・安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・包丁等の刃物類・薬・洗剤等は、必ず鍵を掛け、保管・管理している。(危険物の管理徹底を周知している。)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故報告書(ヒヤリハットも含む)の提出の奨励、それをもとに職員間で原因・改善策を至急に話し合うことを徹底。 ・事故情報を共有するために情報として申し送っている。 ・事故後の対策・改善策の効果の確認を一事案ずつ行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・急変時の対応として、施設内研修にて学んでいる。又、定期的に学ぶことにしている。 ・緊急時のマニュアル対応を周知徹底している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防訓練を年2回実施している。 ・緊急時のマニュアル対応を周知徹底している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・身体拘束の精神的負担の大きさを説明し、行動を制限せずに援助している。そのため起こり得るリスクを予測して家族へ連絡し、そのことを説明している。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・日頃より利用者の状況を把握し、本人の訴え・食欲・水分摂取量・顔色・表情・尿・便の状態等がいつもと違う時は、バイタルチェックを行い記録し職員同士が共有できるようにし、看護師に報告をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服されている薬の種類・数を情報ファイルに記載し、職員が把握できるようにしている。 ・服薬時は、薬袋にある名前を復唱、内服時間を識別しているラインを確認し、本人の顔・名前を確認し、薬袋と照らし合わせ、服薬支援し、口腔内も確認をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・日常生活の中で散歩・体操等で運動したり、水分・乳製品を十分摂取したりで、体内リズムを作り自然排便できるように支援している。 ・下剤服用は、かかりつけ医の指示や本人の希望に応じて対応することがある。 ・毎日各自の排便状況の把握に配慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、歯磨きの声掛けを行いいただいている。 ・出来ない方・上手に磨けない方に関しては、介助を行い、最終確認まで行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・管理栄養士・栄養士がカロリー管理、バランスを考えた食事を提供している。 ・運動時、入浴後、訴え時、食事時は、水分の摂取に配慮している。又、好みの飲み物も提供できるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症に対する施設内研修会に参加し学んでいる。 ・感染症マニュアルを周知している。 ・インフルエンザ予防接種は、本人・家族の希望で受けていただいている。職員はすすんで接種している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・まな板、布巾等は、漂白や熱湯消毒を行い、清潔・衛生に努めている。食器類も定期消毒を行っている。 ・飲食物については、賞味期限・消費期限の確認の徹底を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関から外通路にプランターを置き、利用者や家族、面会者が花を楽しめるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フロアは窓がたくさんあり採光もよく、食卓テーブル・イス以外にも、ソファを置きリビングとしてくつろぐ・和めるような形にしている。 ・室内は季節ごとに、季節感のある装飾を利用者・職員で作っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファで利用者同士が一緒に座って過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用していた家具やテレビを置いたり、家族の写真を飾ったりしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・居室の喚起は、こまめに行っている。 ・空調による室温調整は利用者の好みに合わせて行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ、廊下、浴室等は、手すりを設置し、動作の手助けになるようになってます。 ・ベッドの柵も必要があれば、介助柵も用意している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室にプレートを張りわかるようにしている。又、場合によっては、大きくレイアウトしてわかるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・テラスにプランター、植木鉢を置き、花や野菜を植え、育てている。野菜は収穫して調理してみんなで食しています。 ・物干し台を置き、洗濯物を干したり、取り込んだりもできる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設では、次のような理念を掲げ（グループホーム銘仙の家理念：「みんなが仲良く、笑いの絶えない家」「地域・家族・人が集まる家」「その人の持つ、個性が活かせる家」）、認知症をかかえる利用者様が、その人らしく、安心して日常生活が送れる様、取り組んでいます。認知症の方も、住み慣れた町で、なじみの人間関係を保ちつつ、当たり前の生活が送れる、そんな家を目指しています。